

平成29年度 第1回能勢町地域福祉計画推進委員会 会議録

日 時	平成29年7月13日(木) 14:00~15:50
場 所	能勢町保健福祉センター 1階 集団指導室
出席者	<p>委員長 岩崎 昭雄  副委員長 乾 隆  委員 小南 清  委員 福西 正明  委員 中澤 吉治  委員 八木 キヨミ  委員 黒島 秀子  委員 倉脇 清美  委員 大崎 年史  委員 寺野 芳子  委員 西村 由紀子  委員 古田 美代子  委員 今中 喜明</p> <p>事務局  健康福祉部 部長 瀬川 寛  健康福祉部福祉課 課長 花崎 一真  健康福祉部福祉課 係長 大植 信洋  健康福祉部福祉課 主事 田畑 尚利</p>
事務局	福祉課
会議の公開	公開
傍聴者数	3人

## 1 会議次第

<開会・委員長あいさつ>

<出席者・事務局紹介>

<議題>

- (1) 能勢町子どもの生活に関する実態調査を踏まえた今後の施策展開について
- (2) 「地域共生社会」推進事業について
- (3) 第3次能勢町地域福祉計画進捗状況及び評価について
- (4) 第2次能勢町地域福祉活動計画の進捗状況について
- (5) 今後の予定について

<その他>

- (1) 次回の予定について

## 2 審議経過

<開会>

- 1 開会・委員長あいさつ
- 2 出席者・事務局紹介

<議題>

- (1) 能勢町子どもの生活に関する実態調査を踏まえた今後の施策展開について

事務局：(資料1に基づき説明)

委員：学校のプラットフォーム化で取り組まれるソーシャルワーカーが地域と家庭をつなぐと思うが、これまでの経過と地域福祉計画との関連、どのような事業が進んでいるかなどを踏まえて委員会で議論することになるのか。

事務局：高齢、障がい、子どもなどを対象としたそれぞれの計画があり、その上位計画としての地域福祉計画とそれを推進する委員会がある。それぞれの計画の進捗も含めた地域福祉の展開については、この委員会でも報告を行い情報共有したうえで議論していくことになる。学校と家庭、地域を結ぶ家庭教育支援については6月に対象者の戸別訪問を実施し、状況の取りまとめを行っているところであり、今後進め方についても関係機関と協議している。

委員：会議や学校のプラットフォーム化されたところで出てきた意見については反映していかないと前に進まないの、情報を共有してこそ会議の価値がある。絶えず会議ごとに情報を公開していただきたい。

委員：食事について、本当に困っている子どもたちがご飯を食われているのだろうか。食べられていないのであれば、社会福祉法人が社会貢献の一環で子ども食堂のようなことを考えられる。入所施設には厨房もあり食事の提供も可能。具体的に考えてもらいたい。

事務局：地域貢献委員会等の施設に、資源として居場所づくり、子ども食堂や駆け込み

寺になりうる地域の拠点として連携して地域福祉の推進を図っていけないかと  
社会福祉協議会とも話をしたところ。ぜひともお願いしたい。併せて災害時の  
連携、応援協定も含めて調整していきたい。

事務局：食事が摂れていないという点は様々な要因があると思うが、絶対的な貧困、お  
金がないから食べられないということはほとんどないと思う。食事が摂れてい  
ない要因として家庭を取り巻く環境や保護者の就業などによる要因が多いので  
はないか。まず、家庭教育の支援が必要という観点で取り組んでいる。現実に  
食べられていない児童生徒は居り、その子どもたちへのアプローチは夏休み中  
に行われる子どもの居場所づくり事業の結果を踏まえて、今後の展開につなげ  
ていきたい。

## (2)「地域共生社会」推進事業について

事務局：(資料4に基づき説明)

委員長：昔は山や畑、川から食糧を取ってきては家族で分け合う、隣近所にも配るなど、  
地域の中で循環型社会が形成されていた。現在では地域が疎遠になり、家庭で  
あっても同じ時間に一緒に食事をしなければ、親と子があまり話をしないなど、  
ライフスタイルも変化している。いったん、昔のような社会に戻さなければ、  
あらゆる社会制度がもたなくなってきた。2025年に高齢者が最も多くな  
るが、それは過去その頃に生まれた子どもが最も多いというだけで、問題で  
はなく現象である。しかし、地域共生社会を実現するために、連携、協力し進  
めていきたい。

委員：地域共生社会について、地区福祉計画、地区福祉委員会など各地区の連携等が  
手薄になり、近所の助け合いが必要になってきていると思う。昨年、突然国か  
ら地域創生加速化交付金が町を通して社会福祉協議会に交付され、各地区福祉  
委員会で必要なことを考えたという経過があった。今年も町から補助金があり、  
具体的な使い道はまだ決まっていない。町はいろいろと計画等を作っているが  
実行部隊である社会福祉協議会、地区福祉委員会、ボランティアなどが計画に  
ついていけない。一方、職員が地域に入っていく、要望を聞く形で地域の  
課題解決をしていこうという地域担当制も実施している。この取り組みを効果  
的に活用する方法がまだ見えてきていない。一つ一つ実行していくことが共生  
につながっていくと思う。行政として社会福祉を進めていくうえで参考として  
お聞きしておいてもらいたい。

委員長：加速化交付金について、地方に元気をつけてもらいたいとの思いだと思う。社  
会福祉協議会が担って、地区福祉委員会が進めていく。委員長を中心に今、  
自分の小地域の中でどのように困っているか話し合いをして、そのお金を有効  
に使う。訪問、配食、交通などそれぞれの問題に対して行っていくと思う。

委員：現状、どこまで進んでいるのか。

事務局：現状として、社会福祉協議会と連携しながら仕組みづくり、住民の皆さんにど  
のようにご理解いただけるかということで話を進めている。

委員： やっていただけるならそれでよい。

委員： ソーシャルワークができる人材が町に何人いるかにかかっている。窓口業務を担っている人でソーシャルワークができる人を育てていかないと地域共生社会は難しいと思う。

事務局： ソーシャルワークの研修を受けた者、大学等で学んできた者もいる。町では各団体とのファシリテート役を行うことも想定している。地域の中にもコーディネーター役、ファシリテーター役が必要になる。地域ごとに集まる輪の一員にコーディネーター役、ファシリテーター役が育ってくるのが望ましいが、まずは町でそういう人材を育てている。現在コーディネーターが二人おり、ソーシャルワークにしても研修等を通じて二名育てているところ。

### (3) 第3次能勢町地域福祉計画進捗状況及び評価について

事務局： (資料5～11に基づき説明)

意見、質問はなし。

### (4) 第2次能勢町地域福祉活動計画の進捗状況について

事務局： (資料12に基づき説明)

委員： 地域福祉活動計画についてはさまざまな協議会、委員会、計画などとの関連性が高い計画であり、各部局との関連も多いことから一回の話し合いでまとまらず段階を踏んでいくことになると思うが、本委員会は年3回程度の開催ということだが、もっとスピーディーに物事を進めるため、会議の回数を増やし、他の委員会に提案することができればと思う。

委員長： 地域福祉計画は町行政と社会福祉協議会とが車の両輪となって進めていくものであるが、事務局としてはどうか。

事務局： どれくらいの間隔で行うのが良いのか、回数の問題もあれば中身によってもさまざまである。年3回程度の開催としているが意見集約が必要であれば適宜開催することにもなる。必ず2か月に1回開かなければならないということではなく、適切な時期に開催することになる。

委員： 一度にこれだけの資料があれば理解するまでに時間がかかる。消化できない。

委員長： 事務局と相談する。

### (5) 今後の予定について

事務局： (口頭で説明)

## 4 その他

### (1) 次回の予定について

事務局： 開催回数を踏まえ、委員長と相談のうえ改めて通知する。

閉会